

# アウトドア と 防災

非日常の中で行う「アウトドア」  
災害時や避難時に役立つ知識や道具がたくさんあります。  
ここでは、その一部を紹介します！！

## 焚き火・火をおこす

火をおこすのは大仕事、と思われがちですが、身の回りにあるものを使って簡単に火をおこすことができます。着火材やガスバーナーなど道具を使う方法もありますが、今回は薪などを燃やすための着火の材料を紹介します。

着火材として・・・

- ・まつぼっくり
- ・針葉樹の葉
- ・割り箸
- ・麻紐をほぐしたもの
- ・落ちていた小枝
- 等



## 季節によっては・・・

季節によってあると便利なものも。普段アウトドアで使う道具はすぐ役に立ちます。

### 【夏なら】

- ・小型扇風機
- ・断熱マット
- ・コット（簡易ベッド）
- ・冷感シーツや冷感マット



### 【冬なら】

- ・電気毛布
- ・シュラフ（寝袋）
- ・湯たんぽ
- ・石油ストーブ
- ・ブランケット



## 電源の確保

現代社会で何をするにも必要なのが電気。電源を確保するための道具があります。

- ・ポータブル電源
- ・ソーラーパネル
- ・次世代自動車（EV・PHEV等）



## カセットボンベを使って

家庭用カセットボンベはとても便利です。手軽に料理ができ、暖房器具としても使うことができます。

- ・カセットコンロ
- ・高火力バーナー
- ・カセットボンベ用暖房器具



その他、役立つもの・・・

- ・ロープの結び方
- ・居住空間の確保（テント）
- ・カラビナの使用
- ・様々な照明器具
- 等

アウトドアの知識や道具は非日常を想定しているので、災害時に役立つものが多くあります。アウトドアを楽しみながら防災力を上げてみてはいかがでしょうか。

# 中部防災だより NO.15

令和5年  
春号



編集・発行  
静岡県中部地域局  
藤枝市藤戸新屋362-1  
藤枝総合庁舎本館2階  
TEL 054-644-9104  
Mail chubu-kiki@pref.shizuoka.lg.jp

## トピックス

- ・「避難場所」と「避難所」の違いとは！？
- ・津波から命を守る
- ・アウトドアと防災

# いざというときの行動

地震による災害は突然襲ってきます。そんなとき、どういう行動をとったらよいのでしょうか。事前に調べておいたり、いざというときのシミュレーションをしておいたりすることが、命を守ることに繋がります。「いざというとき」の行動をとることができるように今できることをやってみませんか。

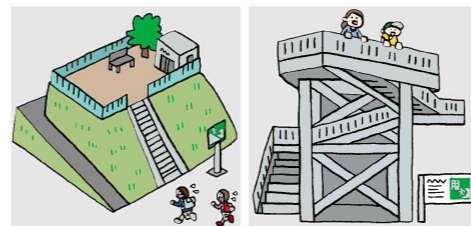
# 「避難場所」と「避難所」の違いとは！？

## 避難場所

津波、洪水等の異常な現象ごとに危険が切迫した状況において、住民等の生命の安全の確保を目的として位置づけられた住民等が緊急に避難する施設又は場所。



ひなんばしょ  
避難場所

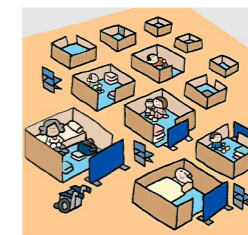


## 避難所

避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、又は災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させることを目的とした施設。



ひなんじょ  
避難所



## 東日本大震災における“釜石の悲劇”

「鶴住居（うのすまい）地区防災センター」を津波の緊急指定避難場所と思い込んでいた地域の方々が、大勢逃げ込み、162人が犠牲になりました。

### どうしてでしょうか

- ・洪水や土砂災害の避難場所として指定されており津波の避難場所ではなかったから。
- ・避難所にも指定されていたが、その避難所は津波から避難できる安全な場所ではないことを知らなかったから。

○避難場所と避難所の違いを理解していなかったことにより多くの方が犠牲になってしまった。

## 避難先を

間違えると命に関わる！！

言葉は似てるけれど、機能や利用する場面が全然違うんだね！！



## 防災アプリ

「静岡県防災」はご自宅や出張・買い物等の外出先の防災情報（周辺のハザードマップ、避難所の位置、警報等）を確認できます（県内に限る）。また、自治体からの避難指示・避難所開設情報等の災害に関する緊急の情報がプッシュ通知されます。



「静岡県防災」のダウンロードはこちらから→  
（11カ国語対応）





# 津波から命を守る

## 津波対策推進旬間

★ 令和5年3月3日（金）～ 3月12日（日）

○静岡県では、東日本大震災が発生した3月11日を含む10日間を、【津波対策推進旬間】として定め、津波に対する訓練や啓発等を行っています。  
○この期間に今一度津波について考えたり対策したりしてみましょう！！



スローガン

**地震だ、津波だ、すぐ避難！**

**～少しでも早く、少しでも高く～**

## 避難経路を確認してみよう！！

Step 1

**避難できる場所を確認しよう！**

津波から避難できる指定緊急避難場所があります。  
(津波避難タワー、津波避難ビル等)

**高台に避難  
してください**

Step 2

**避難経路を考えてみよう！**

津波から避難できる指定緊急避難場所までどのような方法でどこを逃げていけばいいのか想像して、避難経路を考えておくことが大切です。

Step 3

**危険はないか確認しよう！**

考えた避難経路が安全なのかどうか現場で確認をしてみましょう。歩いて自分の目で確認してみると、危険な箇所が見つかるかもしれません。

Step 4

**避難経路が決まったら共有しよう！**

安全が確認できたら、事業所や家族みんなで情報を共有しましょう。身近な人の安全のために必要なことです。

### 静岡県防災



- 避難トレーニング** → 避難先への経路・時間の記録機能
- マップ・避難場所等** → 指定避難所や指定緊急避難場所を確認
- 現在地の防災情報** → ハザードマップによる危険度の確認機能

### わたしの避難計画

パソコンやスマートフォンで簡単に作成できます。

静岡県 わたしの避難計画

<https://www.pref.shizuoka.jp/bo-usai/seisaku/watahina.html>



## 津波からの避難場所はどこ！？

津波から避難するときの鉄則は

指定されているビルの看板

**とにかく安全な高いところへ逃げる！**



津波から避難するための施設

いのち山



津波避難タワー



津波避難ビル



**被害の最小化  
を図る！**

**津波を防ぐ防潮堤** が整備されています

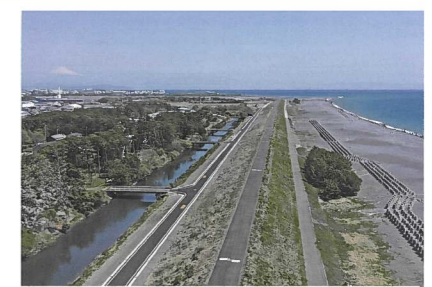
静岡県は、南海トラフ地震の震源域に近く、津波の到達が早い沿岸部に人口・資産が集中しており、甚大な被害が想定されています。そこで、命を守り、被害をできるだけ少なくするよう、地域特性を踏まえた津波対策の中から、レベル1の津波（※1）に対する施設設備や、レベル1を超える津波に対する海岸防災林等の高上げを行う「静岡モデル防潮堤」（※2）の整備が進められています。

●静岡モデルの施設整備（例）イメージ図



静岡県交通基盤部HPより

※1 レベル1の津波：発生頻度が比較的高く、発生すれば被害をもたらす。  
※2 レベル1を超える津波に対しても、施設による被害の最小化を図るため、地域住民の合意を得て、海岸堤防の背後盛土等を行うもの。



吉田町における静岡モデル防潮堤【川尻防潮堤】



焼津市における静岡モデル防潮堤【潮風グリーンウォーク】